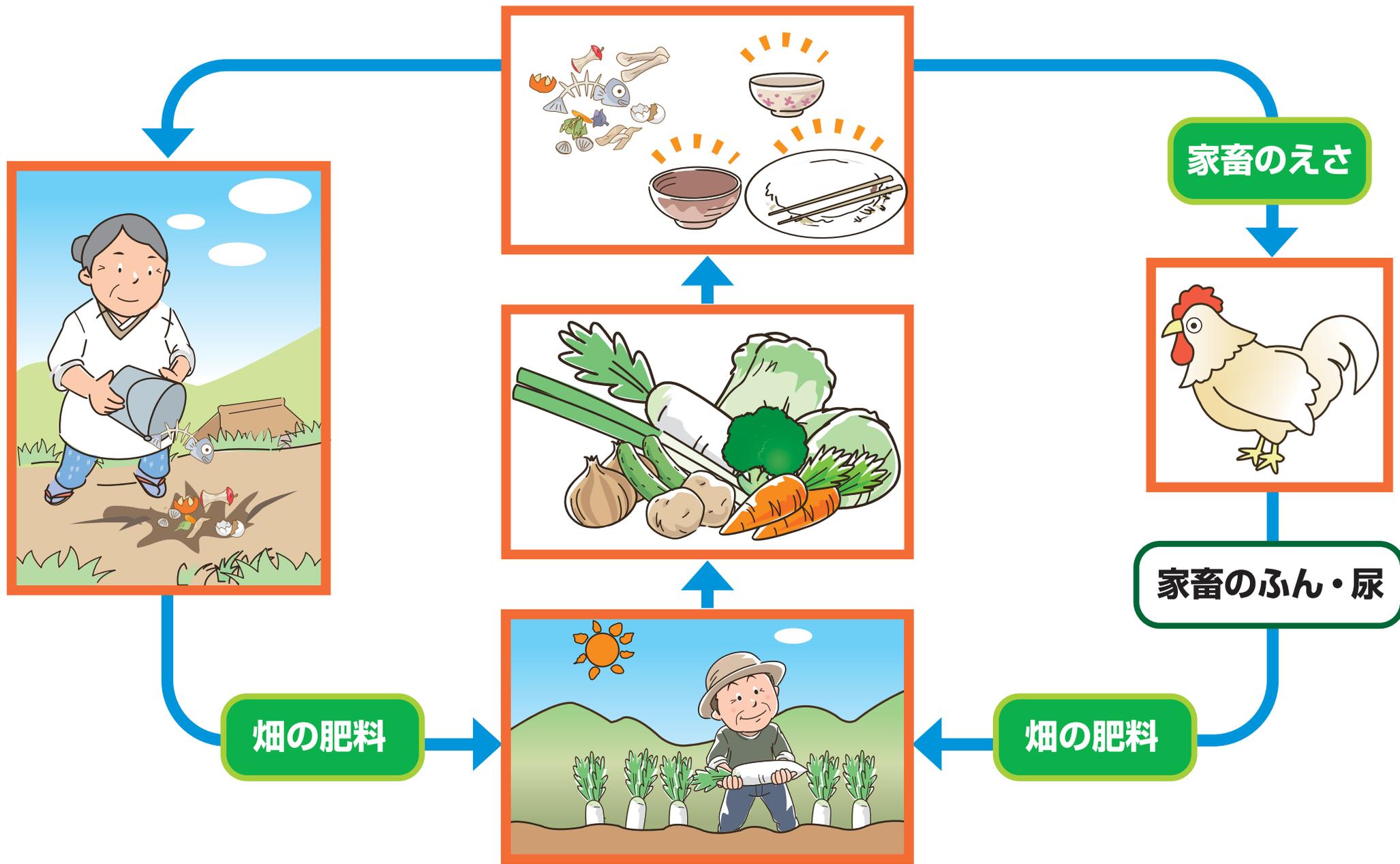
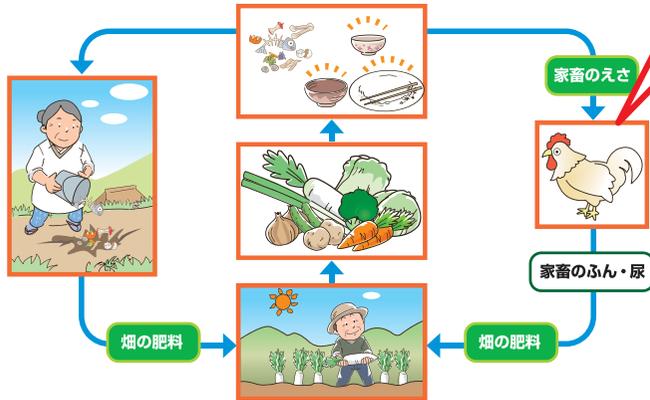


# 「もったいない」が当たり前だった昔の生活



【ねらい】資源やエネルギーをあまり使わず、自然を生かしていた昔の生活を振り返ることにより、昔の人々の様々な智恵や工夫を学ぶとともに、それらを現代の私たちの生活に生かし、限りある資源やエネルギーをいかに効率よく使っていくかを考えさせます。

「もったいない」が当たり前だった昔の生活



【資料解説】

このイラストは、昔の食生活の中で出た生ごみを家畜のえさや肥料として生かしていたようすを表したものです。

●昔の食生活は「残さず食べる」「ほんのわずかのくずも徹底的に有効活用」

日本では、昔から、「お米一粒でも農家の人苦勞して作ったものを粗末にはいけない」、「もったいない」と言って、残さず食べるということが当たり前でしたし、食べることのできないほんのわずかのくずの部分も、土に埋めて庭や畑の肥料にしたり、あるいは豚や鶏などの家畜のえさにし、またその家畜のふんや尿も、肥料にするなど、ごみをできるだけ出さず、徹底的に有効活用していたようです。

●大量のごみが出される現代の食生活

それに比べ、現代の食生活においては、コンビニエンスストアやスーパーで既に調理済みのパック詰め食品や冷凍食品を買ってきて、手軽に食事ができるようになったほか、外食も日常化してきました。(資料51参照)

その一方で、包装容器がごみとして多く捨てられ、食べ残しも大量に出るようになりました。

また、マンションなど、自然の土から離れた生活をする中で、土に埋めることもなくなり、家庭の生ごみは、焼却ごみとして出すのが一般的となっています。

●多くの時間とエネルギーがかかるごみの処分

高松市内の家庭から出る焼却ごみの調査によると、焼却ごみの約1/3が、野菜くずや食べ残しなどの生ごみとなっており、そのうち約80%が水分となっています。そして、水分が多いために、集めて燃やすのにとっても多くの時間やエネルギーがかかり、環境面でも費用面でも大きな負担となっているのです。

●まずは、「ごみを減らす」そして、「ごみを『資源』として見直す」

生ごみは、普通の生活の中でほんの少し気をつけるだけで、大きく減らすことができます。まずは、必要な分だけ買って無駄なく使い切る。外食でも、食べきれものだけ頼み、残さないことが必要です。また、ごみが出てしまう場合でも乾燥して水分を減らすことで大幅に量を減らすことができます。

県内の市町では、生ごみを減らすため、生ごみ処理機や堆肥化容器の購入の補助を行っているほか、三豊市では、ダンボール箱を使って微生物の力で生ごみを分解する「ダンボールコンポスト」を進めるため、ダンボールコンポストの資材を無料で支給しています。

わたしたちの食生活が大きく変化する中で、様々な種類のごみが増え、ごみの処分に多くのエネルギーや費用をかけるようになりましたが、改めて、昔の生活を振り返り、ごみを減らすとともに、ごみを「資源」として見直す取り組みが広がっています。

参考：「さあ！はじめよう 生ごみダイエット」(高松市環境局)

※資料69 (リサイクル燃料)、資料70・71 (うどんからエネルギー)、資料72 (食べ残しを生かす循環) と関連付けて使用することで、資源やエネルギーの有効利用に向けた現代の取り組みに生かされる昔の暮らし方に気づくことができます。

【関連する各教科の学習内容】

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会	○地域の人の生活				【地理】 ○世界と比べた日本の地域的特色(資源・エネルギーと産業)		【公民】 ○私たちと国際社会の諸課題(地球環境、資源・エネルギー問題) ○私たちと国際社会の諸課題(よりよい社会を目指して)
理科							
技術・家庭(技術)							
家庭技術・家庭(家庭)			○快適な住まい方 ○環境に配慮した生活の工夫		○住生活の工夫 ○家庭生活と環境		